

福島県の白鳥渡来地

阿 部 武

はじめに

福島県は北海道、岩手に次ぐ広い面積をもつ県で、自然公園も多く、都市化が進んでいるとはいえ、自然に恵まれた県である。福島県に渡来する白鳥は大部分がコハクチョウで、昭和50年頃より飛来数が急増し、61～62年シーズンには3,000羽を越す白鳥が各地の湖沼で越冬した。県南の飛来数、飛来場所については真岡(1985)及び市川(1985)があるのみで、全県にわたるまとめはない。今までの観察記録及び文献をもとにまとめてみたい。白鳥観察や渡来数変化の研究に役立てば幸いである。資料不足で一部不正確なところもあるが、今後の研究により補ってゆきたい。

(1) 主な白鳥渡来地

最近の県内の渡来地は図1の通りである。多数の飛来があるのは①猪苗代湖、⑤福島市岡部の阿武隈川、⑬鏡石町

高野池などで、それぞれ1,000羽以上が越冬する。

また県南の白鳥池⑮、庭渡池⑯、梁森⑰、南湖⑱や、いわき市の鮫川⑲にも数百羽の飛来がある。

猪苗代湖への渡来については大森著「白い鳥」にくわしいが、大正14年白鳥が国際保護鳥とな

るまでは、カモ類と同様、狩猟の対象となって

おり、多くの白鳥が狩られていたと思われる。昭和23年より保護が始まり、天然記念物に指定されるなどにより、飛来数が増加したと思われる。

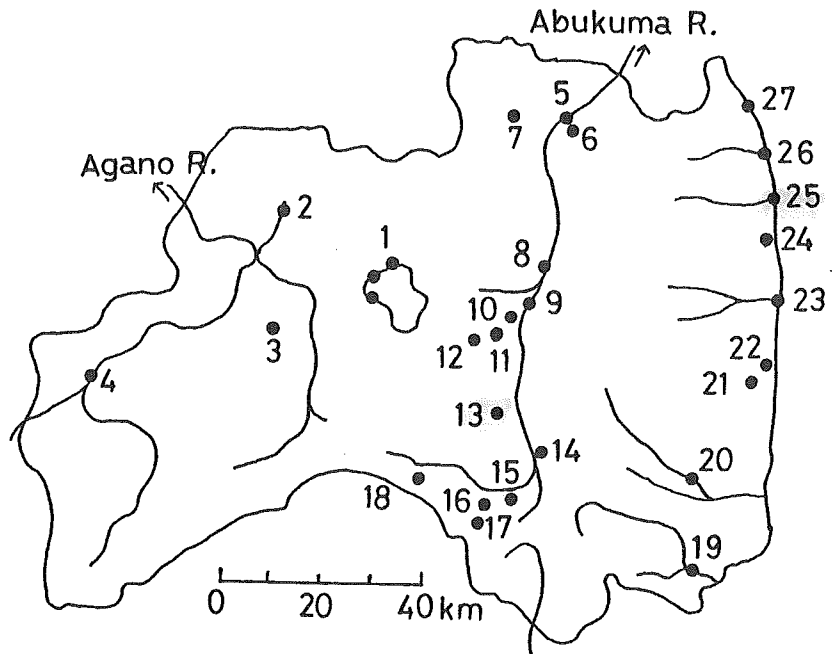


図1 福島県の白鳥渡来地、飛来地は中通りの阿武隈川沿いの低地と、浜通りの海岸近くの低地に集中している。この内、越冬する場所は数ヶ所に限られている。

県南地方への飛来については湯浅著「福島野鳥」にくわしい。同書によれば、ハクチョウ類は「迷鳥」となっている。大正の初め郡山市開成山の五十鈴湖に2羽飛来、大正の終り頃、多田野の夏井部落の大池に9羽飛来、何羽かは撃ち取られたが他は逃げたという。矢吹町へも戦前は町池に毎年数羽が飛来していたが、戦時中飛来しなくなったという。

次に各飛来地ごとの記録をまとめてみる。

- ①猪苗代湖：不凍湖、北岸は遠浅で水生植物が豊富にあり、白鳥の渡来地として適した場所である。最近の飛来地と飛来数は(86年3月)長浜579, 北岸416, 笹山28, 崎川浜276, 秋山22, 舟津179, 計1,500, となっている。現在各浜で餌付けが行なわれており、特に決った場所に集中することはない。北岸一帯を除き、岩石や砂浜で本来飛来は少い浜も、餌付けで増加している。特に崎川浜と長浜は飛来数が急増している。
- ②中善寺堤：山間部にある農業用水池で地元の郷土の森公園の一部。昭和58年2羽, 60年36羽, 62年100羽と増加している。厳冬期は凍結し、この時期は猪苗代湖に移動するらしい。62年シーズンは暖冬の為20羽が越冬した。
- ③石合ため池：55年頃より飛来、60年2月42羽飛来、近くの阿賀川にも少数飛来する。昭和36年2月23日若松市内上空を5羽(成3, 幼2)通過の記録がある。
- ④滝湖：水量調節用ダム、昭和58年3羽, 59年15羽飛来、コハクチョウの他オオハクチョウ、オンドリ等も飛来する。
- ⑤岡部の阿武隈川：県内では猪苗代湖に次ぐ古くからの渡来地で飛来数も最近では1,000羽を越えるまでになった。飛来数や保護の状況については「福島野鳥」にくわしい。初飛来は、昭和40年10月4日で1羽(幼), 44年10月末3羽, 45年1月21羽, 2月29日には20数羽となる。この後年々飛来数が増え、市民の保護活動が活発に行なわれている。この近くには市のバードサンクチュアリもあり福島県の野鳥保護の中心地でもある。
- ⑥茶屋沼、二ツ沼：岡部地内にある農業用水池で阿武隈川と行き来しているらしい。
- ⑦十六沼：戦前は毎年飛来していたが、昭和60年、40年ぶりに4羽が飛来した。
- ⑧本宮町：阿武隈川に昭和50年頃から飛来がある。荒町、薬師堂裏の中洲、蛇の鼻遊楽園などで計16羽が越冬、また近くの県民の森の鳥獣保護センターには傷ついた白鳥が毎年10羽以上持込まれ、手当を受けている。
- ⑨北小泉の阿武隈川：61年1月34羽のコハクチョウが飛来、62年1月, 34羽(幼5)が越冬している。この近くは比較的流れもゆるやかで、カルガモ、マガモなどの他ミコアイサなども飛来した。
- ⑩善宝池：毎年数羽が飛来する。58年2羽, 59年11月6羽, 60年10月中旬5~6羽, 60年12月20羽が飛来した。近くの宝沢沼に55年11月15羽が、また日和田の菖蒲池に55年2月4羽のオオハクチョウ(幼2)が飛来した。
- ⑪豊田貯水池：市の中心部にある水道局の貯水池で、多くの水鳥が飛来する。1シーズンに4, 5回, 4~5羽のグループが飛来する。
- ⑫大槻町美女池：52年暮にオオハクチョウ3羽, 53年1月に5羽(幼1)が飛来、昭和42年頃より飛来はあるがすぐ飛去する。近くの三穂田町葉の木池にも昭和56年頃より飛来し、57年は20羽, 58年10月1羽が飛来した。
- ⑬高野池：田園地帯にある農業用池、昭和53年頃より飛来し、餌付と保護により飛来が急増している。

池の南～西側の一部にヨシが繁り恵まれた場所である。昭和54年29, 55年124, 56年250, 57年350, 58年650, 59年950, 60年1,000, 61年1,200となっている。大部分がコハクチョウでオオハクチョウは5～7%程度, 他にカモ類, マガン, ヒシクイ, ミコアイサ, ユリカモメなども飛来する。最近, アメリカコハクチョウが2～3羽毎年飛来している。

- ⑭ 武道池：昭和59年頃より毎年10数羽の飛来がある。近くのレストランよりゆっくり観察できる。
- ⑮ 白鳥池：昭和20年頃白鳥が飛来した事から名づけられたという。昭和45年2羽, 48年12月4羽, 51年11羽(成9, 幼2), この後餌付けと保護により増加, 54年34(コハクチョウ32, オオハクチョウ1, コブハクチョウ1), 60年には613羽が越冬した。
- ⑯ 庭渡池：東村には昭和49年頃より近くの「三ツ池」に数羽飛来, この後毎年10数羽ずつ飛来していたが, 55年池周辺の工事の為庭渡池に移動したらしい。55年庭渡池, 数羽, 56年30, 57年50, 58年70と増えている。くわしい観察記録が市川(1985)によりなされている。61～62年シーズンには160羽の飛来があったが, 12月上旬他へ移動してしまった。この池から800mほど南の池に20羽が越冬している。
- ⑰ 梁森：農業用池, 59年暮5羽が飛来, 保護と餌付けで増加し, 60～61年シーズン80羽, 61～62年シーズンでは最大102羽のコハクチョウが越冬した。
- ⑱ 南湖：市街地から小山1つ隔てた公園で, ジュンサイやハスなどがあり, マガモ, カルガモなど, 3,000羽が越冬する。昭和50年1月1羽が飛来, 52年12月近くの泉崎地内の阿武隈川に5羽が飛来した。昭和54年23, 55年コハクチョウ78, オオハクチョウ30計108羽の飛来があった。59年1月4羽, 61年2月16日最大185(コハクチョウ177, オオハクチョウ8)62年2月14日最大128(コハクチョウ117うち幼22, オオハクチョウ11うち幼5)の飛来があった。また59年11月には近くの矢吹町の養魚池にコハクチョウ17羽が飛来した。
- ⑲ 鮫川：流路変更の為のダム湖, 昭和50年から飛来している。52年1月7羽(幼3), 55年11月3羽飛来しこの後最高29羽となる, 56年11月6羽飛来, 58～59シーズン70羽, 59～60シーズン10月25日4羽飛来し11月14日21羽となり60年2月1日最高70羽となる。60～61シーズン11月24日80羽, 61～62シーズン1月2日145羽(幼47), 1月11日には150(幼45)となる。
- ⑳ 夏井川：中洲のある小さいダム, 以前は中継地だったらしい。59～60シーズンより飛来, 60～61シーズン39, 61～62シーズン12月7日60羽, 1月2日48(コハクチョウ32うち幼10, オオハクチョウ16うち幼6)1月11日96羽(コハクチョウ90幼28, オオハクチョウ6幼2)。
- いわき市への飛来の記録は昭和20年頃, 滑津川口に飛来, 昭和30年頃沼部町に1羽, 51年にも1羽飛来し, いずれもすぐ飛去したという。
- ㉑ 富岡川：51年12月30日夕方, オオハクチョウ4羽(幼)が飛来,
- ㉒ 上茂岡大堤：50年, 51年に数羽飛来, 59年11月北田境の木戸川川口より1Km上流に20羽飛来, 60年11月20日12羽飛来,
- ㉓ 金ヶ森：51年12月30日オオハクチョウ5羽, 54年浪江町泉田川河口に飛来, 57年12月5羽飛来, 61年1月請戸川酒田橋下に1羽飛来越冬。
- ㉔ 前川沼：59年12月中旬より47羽(成20, 幼27)が飛来, 60年1月27羽飛来,
- ㉕ 新田川：55年頃10数羽飛来, 59年11月中旬20羽飛来, その後餌付けと保護で増加, 60年1月8日60

羽飛来，1月27日には72羽，29日には80羽となる。60年2月24日70羽越冬。

㊸手の沢ため池：昔，数10羽飛来した事があるという。58年頃より2～3羽ずつ飛来，59年12月2日頃2羽飛来，60年2月1日10羽となり24日には15羽となる。

㊸松川浦：ノリ養殖などが行なわれる内海，時々，白鳥が飛来するというが詳しい事は不明だが，伊豆沼からのガンや白鳥の移動があるという。52年2～3月，西部の水田地帯にガン数百羽飛来した事がある。

(2) 渡来数の変化

文献をもとに，飛来最大数を年度ごとにまとめグラフにすると図2のようになる。猪苗代湖は以前から飛来があり，餌付けと保護により年を追って増加している。

岡部，高野池も同様である。飛来数の増加の原因はいくつか考えられるが㊸出生数又は生存数の増大か㊸飛来地の変更，のいずれか又は両方であろう。

㊸は餌付けにより越冬地での栄養状態の向上が考えられ，これが出生数や生存数の増大につながっている可能性がある。水草など餌となる植物が少い岩石浜や砂浜，河川などでも越冬できることから推定すれば，ヨシの根など自然の餌に比べ，パンや穀物等の人工餌は相当高い栄養価をもつものと思われる。

さらに餌付に伴う保護や休猟

区，禁猟区への変更など生息環境の改善も飛来数の増加につながっているように思う。㊸は日本以外や他の渡来地に渡っていたコハクチョウが移動してきた，と考えることで飛来数の増加を説明するものだが，他の渡来地でのデータがなく推定の域を出ない。くわしくは今後の研究にまちたい。

(3) 県南の渡来地での飛来数の季節変化

県南の高野池，白鳥池，庭渡池，南湖のシーズン中の飛来数を1週間ごとに調査しグラフにすると図3のようになる。他の飛来地と同様10月下旬から飛来数が増し，12月下旬にはほぼ一定となる。この後越冬期に入り凍結が始まると，凍結しない高野池や南湖に移動し，白鳥池や庭渡池はゼロとなる。3月に入り氷が解けはじめると再び分散が始まるが，4月上旬，繁殖地への渡去がおこり4月末までにほぼ全個体が飛去する。86-87シーズンもほぼ同様の変化が観察された。これらの渡来地相互の移動は市川(1985)により，標識鳥を目印にくわしく調べられているが，例年飛来する個体は一定して

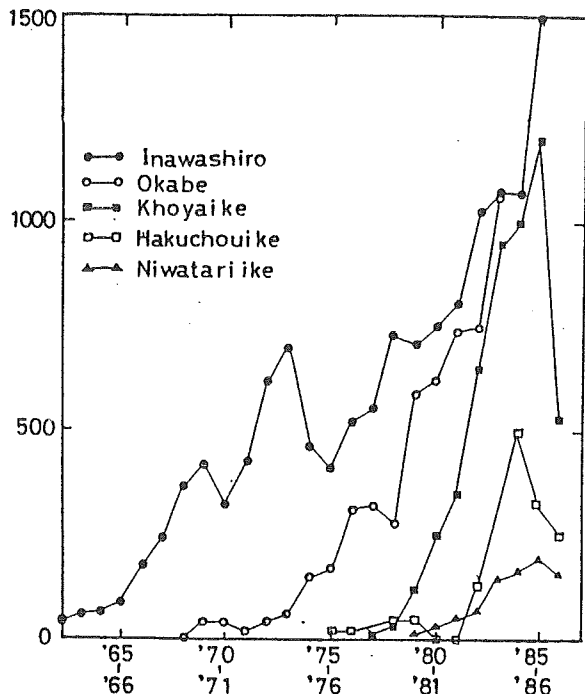


図2. 主な渡来地での飛来最大数の変化，餌付けと保護により飛来数が急増している。

いるようにみえる。

この季節変化のグラフから推定すると、渡来数の計測は日本野鳥の会で実施している、1月中旬が適していることがわかる。また飛来最大数は、凍結による移動により2月中旬に生じることも推定できる。

(4) 引用文献

①雑誌アマガモ 117 (1982),
ハクチョウの繁殖と越冬の謎, 平凡社

②福島県野鳥の会編(1979):
ふるさとの鳥をたずねる—
福島県の野鳥, 岩瀬書店

③福島県小学校教育研究会編(1981): 福島の理科ものがたり, 日本標準

④本田清(1981): 白鳥のいる風景, 日本放送出版協会

⑤市川惇一(1985): 県南地方のハクチョウ, 県南の生物第1集P 105 - 112, 福島県高校教育研究会理科部会県南支部生物部会,

⑥市川惇一(1986): 福島県に渡来するハクチョウ, 県南の生物第2集P 127 - 134, 同上

⑦真岡進(1985): 旅立ち近いハクチョウ県民と名残を惜しむ, 福島民報昭和60年2月24日朝刊・記事

⑧日本白鳥の会編(1987): 白い鳥, ハクチョウとともに40年, 大森常三郎著作集, 野生生物情報センター,

⑨雑誌日本の白鳥 9~12, (1982~1985) 日本白鳥の会,

⑩湯浅文多郎(1953): 福島県の鳥, (私家版)

⑪湯浅恭一編(1975): ふくしまの野鳥, FCT(福島中央テレビ)サービス出版部,

⑫吉川繁男(1982): ハクチョウと生きる—瓢湖のハクチョウをめぐる, 大日本図書

⑬岡部白鳥愛護会編(1983): 福島の白鳥, 同愛護会,

他に地元の新聞(福島民報, 福島民友)及び朝日新聞, 毎日新聞, 読売新聞の地方版の記事を参考にした。

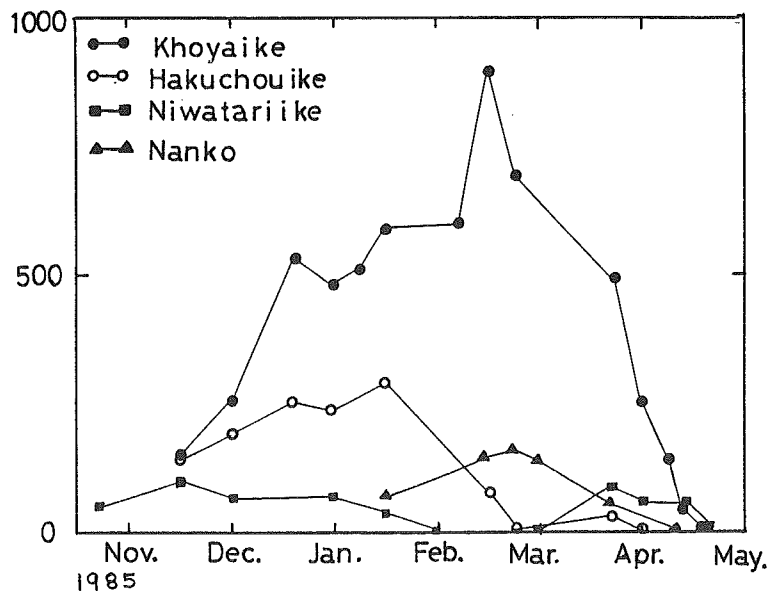


図3 県南の渡来地における飛来数の変化

1986.年期の白鳥調査報告

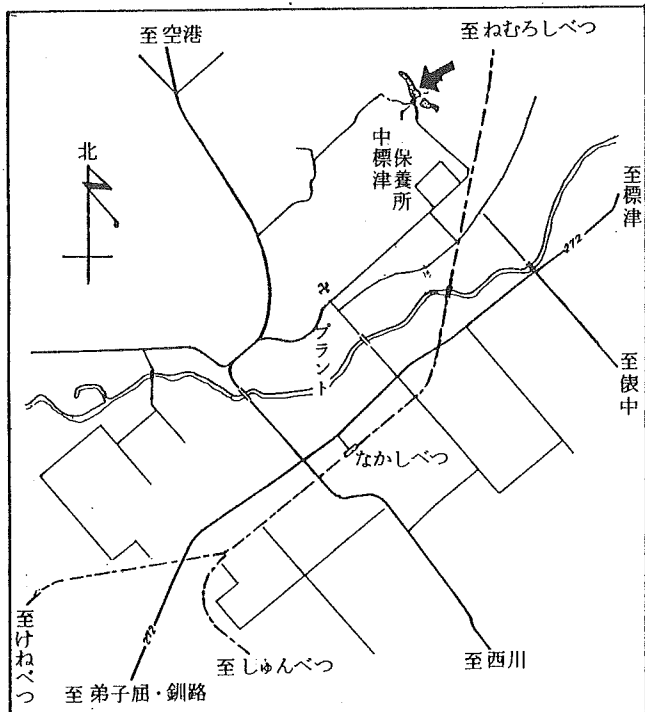
今野重郎・玉田 誠

1986年期に実施した“白鳥の調査”について次の通り報告します。

- ① 濤沸湖と藻琴湖に於ける調査
- ② 濤沸湖の周辺部に於ける“はみ出し白鳥”
- ③ 屈斜路湖及び弟子屈町街内の釧路川及び鑑別川に於ける調査
- ④ 網走湖及び網走川の市街域内の調査
- ⑤ 道東南部及び同北部域に於ける調査
- ⑥ 斜里川-斜里橋付近の調査(近藤末子)

濤沸湖ではカラーバンド装着の標識鳥は1羽も観察できず、ガイド№140のメタルリングのみが残着しているもの、右足・左足各2羽・計4羽を観察したが固有ナンバーは読み取ることができなかった。2月20日午後尾岱沼・春別川河口に於て次の7羽の標識オオハクチョウを確認した。3 C73, 3 C74, 3 C79(以上の3羽は1986年2月16日尾岱沼で標識したもの), 3 C83, 3 C84, 3 C85, 3 C86(以上の4羽は本年尾岱沼で標識した6羽のうちのものであるが着標月日は不明)。

以上の他、今野は中標津町・中標津保養所(加藤忠雄方)の人口溜池に飛来していたオオハクチョウについて下記の調査結果を得た。2月8日-11A・2J, 2月20日-11A・2J, 3月26日-20A, 2J。



中標津町市街要図